

安全かつ安定した事業活動のために

古河スカイグループは、事業活動を安全かつ安定的に遂行し続けるために、大規模地震の発生や新型インフルエンザの感染拡大を想定した「BCP(事業継続計画)」の策定や、事業所でのリスクアセスメント、労災防止教育など、さまざまな施策を積極的に実施しています。

お客様

製品の品質保証と安定供給

お客様に品質が確かな製品を安定的に供給できる体制を構築し、お客様のビジネスの成長を支援しています。



株主・投資家

事業継続による安定収益の確保

危機管理体制を構築し、事業の継続的な成長を図ることで、企業価値の向上に努めています。



古河スカイグループの取り組み

BCP(事業継続計画)の取り組み強化

地震被災時対策

新型インフルエンザ対策



安全の確保、品質・生産性の改善活動



地域住民とのコミュニケーション



リスクアセスメントと設備の本質安全化



災害防止に向けた教育とコミュニケーションの推進



生活習慣病対策、メンタルヘルスケア



地域住民

地域社会の安全確保

地域住民の皆様安心して暮らしていただけるよう、環境活動に関する説明会の開催など積極的な情報開示を行っています。



環境

環境破壊の防止

工場などの事業拠点では、事故などによる環境破壊を防止する取り組みを強化するとともに、環境リスク対策にも力を入れています。



従業員

働きやすい職場の確保

より安全で衛生的な職場づくりに努め、従業員が健康で、安心して働ける労働環境を整えています。



古河スカイグループでの取り組み



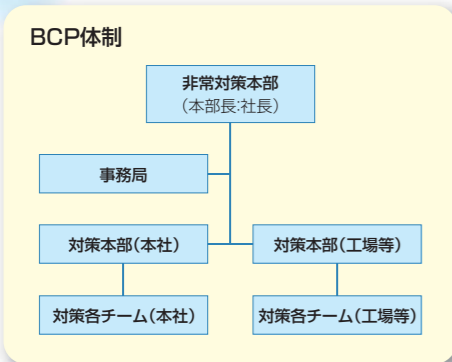
BCP
(事業継続計画)の
取り組み強化

BCP(事業継続計画)は、事故や自然災害で生産設備などが損害を受けても、重要業務を中断させない、中断してもできる限り短期間で復旧させるための計画です。当社では、2008年3月から、危機管理の一環として、震度6強クラスの大規模地震発生や、新型インフルエンザの感染拡大などを想定したBCPへの取り組みを開始しました。



総務部
安藤 信

各製造拠点で地震被災時対策を推進しました。



当社では、BCPの一つとして地震被災時対策に取り組んでおり、その基本方針として、①迅速な復旧と二次災害の拡大防止に努めること、②関連会社を含む従業員、来訪者の生命・安全を確保すること、③供給責任を果たし、顧客の信頼を高め、競争力を増すこと、を掲げています。

この基本方針に沿って、2008年度は、各製造拠点でリスクが顕在化した際の具体的な対応手順を文書化するとともに、①想定される被害レベルに応じた重要業務の目標復旧時間の設定、②国内に複数工場を有する利点を活かした代替生産体制の確立、③工場建屋の耐震診断の実施、④震度6強クラスの地震を想定した安否確認訓練の実施、に取り組みました。

新型インフルエンザ対策として緊急対策本部を設置しました。

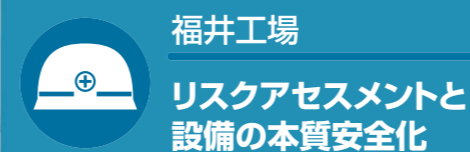
当社では、新型インフルエンザ対策の基本方針として、①従業員およびその家族ならびに、近隣社会、顧客の人命保護、②感染拡大の防止、を掲げています。

この基本方針に則り、2009年1月には、鳥インフルエンザウイルス(H5N1)の感染を想定したBCPを策定しました。また2009年4月には、新型インフルエンザの発生を受け、緊急対策本部を設置し、感染予防に向けた全社的対策を開始。1月に策定したBCPをもとに、対策を実施しています。さらに秋口以降の感染の第2波に備え、情報収集体制の整備と柔軟な行動計画の策定、マスク・消毒液などの備蓄に取り組んでいます。



受付での新型インフルエンザ対策

各工場、グループ各社での取り組み



福井工場
リスクアセスメントと
設備の本質安全化



製造部
慈道 文治

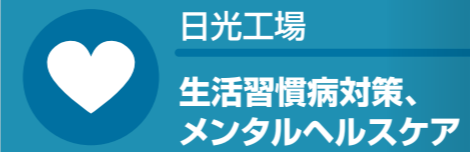
リスク要因を抽出し、
工場の安全対策を進めています。

福井工場では、小集団活動をベースに、日常業務から蓄積された「ヒヤリメモ」やイエローカードの情報を加味してリスクアセスメントを実施。そこからリスクの高い要因を抽出して作業標準書の作成や設備改善などを行い、リスクを低減するよう努めています。

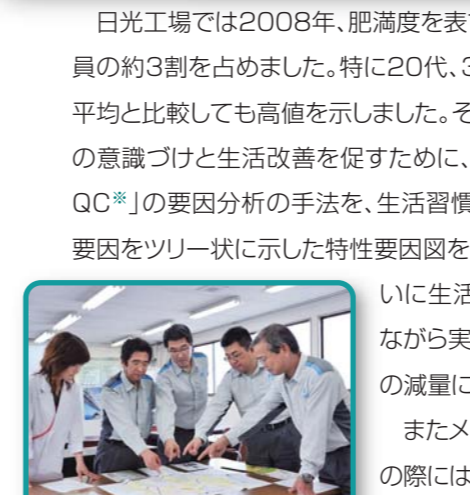


リスクアセスメントの様子

さらに、新しく導入した設備については、製造部と工務部が連携し、リスクアセスメントの結果を基に、毎年計画的に設備の本質安全化(C規格化)を推進しています。



日光工場
生活習慣病対策、
メンタルヘルスケア



生活改善指導の様子

従業員の肥満対策として、
生活改善指導を実施しました。

日光工場では2008年、肥満度を表すBMIが25以上の肥満者が、従業員の約3割を占めました。特に20代、30代の約4割が肥満で、県内・全国平均と比較しても高値を示しました。そこで、2008年9月から、肥満予防の意識づけと生活改善を促すために、普段、業務で活用している「KYT・QC^{*}」の要因分析の手法を、生活習慣病対策として導入。生活習慣病の要因をツリー状に示した特性要因図を用いて自己分析し、目標を決め、互いに生活改善を宣言し合いました。楽しみながら実施した効果もあり、1年間で15kgの減量に成功した人もいます。

またメンタルヘルスケアとして、健康診断の際にはメンタル面の問診を実施しました。

※ KYT：作業に潜む危険を事前に予想し、指摘し合う訓練

QC：品質管理



管理グループ 看護師
小室 好美

各工場、グループ各社での取り組み

深谷工場
地域住民との
コミュニケーション

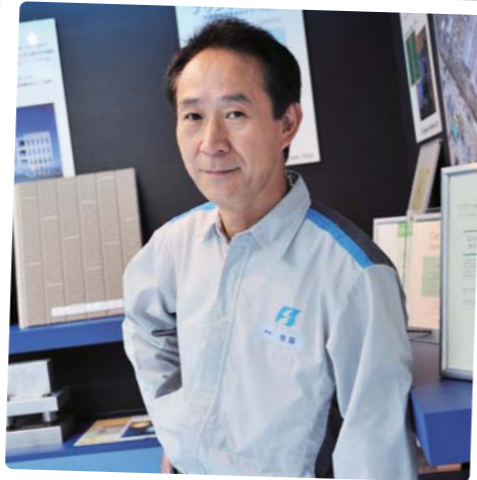
地域住民の皆様を招いて、
環境活動に関する説明会を開催しました。

深谷工場では、2008年10月に、当社グループと地域住民、行政との三者による「環境コミュニケーション」を実施しました。この取り組みは、環境保全の取り組みを紹介し、住民の皆様との信頼関係の構築を図るものです。今回、県と市の職員8名、近隣住民・会社から16名、当工場からは工場長をはじめ14名が参加。当社グループならびに深谷工場における化学物質の管理や使用削減の取り組みを紹介しました。また、光ダクトなどの環境調和製品の開発・製造や燃料転換によるSOx、

NOx、CO₂の排出量削減への取り組みを紹介したほか、工場見学も実施しました。このほか、県や市の職員の方に化学物質管理の必要性について講演していただきました。



環境コミュニケーションの様子



環境安全部
佐藤 邦美

小山工場
労災防止教育

新人に対する、業務のフォロー活動を通じて、
安全への意識向上に努めています。

小山工場・鋳鍛工場では、2005年度に発生した災害の約50%が新人従業員^{*}に起因するものだったことを踏まえて、2006年、安全衛生活動方針を改定。新人従業員にもわかりやすい作業標準書を作成し、入社時、3ヶ月・6ヶ月・1年後の定期教育を実施しています。また、日常の業務から得られた安全に関する教訓などを従業員間で話し合う「安全の日」を設けています。さらに、新人従業員が作業標準書どおり進め

られているかを確認する巡回活動を実施しています。2008年度からは、リスクアセスメントの結果を業務改善に活かす「リスクアセスメントフォロー」を行い、災害発生率低下に努めています。

^{*} 新卒採用従業員・社外助勤者・異動になった従業員・派遣従業員



安全に関する話し合いの様子

安全衛生グループ
成田 裕幸

古河スカイ滋賀(株)
災害防止に向けた教育と
コミュニケーションの
推進

タテ、ヨコ、ナナメのコミュニケーションで
休業災害ゼロを継続しています。

当社グループでは、「基本を守り 全員一丸で 安全職場をつくろう!」「決めたルールは 徹底して 守ろう、守らせよう!」をスローガンに災害ゼロをめざしています。その実現に向けて、古河スカイ滋賀(株)では「タテ・ヨコ・ナナメのコミュニケーションで明るい職場づくり・人づくり」を重点実施項目として、現場パトロールを実施。各現場の従業員に声をかけて不具合を聞き出し、危険な行動を見つけた場合はその場で指導するなど、コミュニケーションを重視した安全教育を実施しています。また、リスクアセスメントの勉強会などを通じて、作業や設備の改善を進めています。その結果、2003年9月17日以降、休業災害ゼロを継続しています。



リスクアセスメント勉強会



総務部
川原 繁

古河カラーアルミ(株)
安全の確保、品質・
生産性の改善活動

5S活動を通じて、安全の確保、
品質・生産性の向上に努めています。

当社グループでは、「全社安全衛生活動方針」の一つに「5S(整理・整顿・清掃・清潔・しつけ)活動の徹底」を掲げています。5S活動は安全の確保だけでなく、品質や生産性の向上の基礎でもあり、グループ全体でその推進に取り組んでいます。

古河カラーアルミ(株)では、塗装ラインのコイル材料の置き方を見直すことで、ストック量をこれまでの40%以下にすることができました。

2008年度はこのほか、用品類の発注窓口を一本化し、必要時に必要量を無駄なく購入できるようにしました。



清掃の様子



製造課
八島 成正